

団体名	だれでもアートこくぶんじ
助成額	90,000 円
申請事業名	だれでもアートこくぶんじ

活動・事業報告

団体設立以来、参加者が楽しみながら安心して続けられるサークルを作ることに取り組んできた。本年度は、安心して通えるような会場を確保と、「だれでもアートこくぶんじ」ならではの雰囲気づくりに取り組んだ。そのためには、「場の雰囲気は参加者自信がつくりだすもの」と考え、参加者それぞれの自主性（何をするか自分で決める）を大切にして、参加者が楽しみと達成感を持つよう努めた。

結果としては、年間を通じて同じ開催場所を確保でき、参加者の数が安定してきた。スタッフは参加者の自主性を引き出すことを心掛けたため、参加者それぞれへの対応（声かけ、励まし、アドバイス）がより適切になった。参加者は、自分のペースで自分に適した素材や方法を自主的に探し出すことができるようになった。

事業報告

開催回数：19回（24回予定のところ、会場福祉センター臨時休館（修繕）、新型コロナウィルス感染防止のための開催中止）

参加者数：100人（のべ）

助成金使途について

開催回数が予定回数に満たず（会場臨時休館、新型コロナのため）スタッフの人工費が少なくなったため、人工費充当分の一部を消耗品費に充てさせていただいた。

助成金活用額

人工費￥50,000（申請時）

→￥45,000（充当額）

消耗品費￥30,000（申請時）

→￥35,000（充当額）

助成金を受けての成果とその自己評価

活動の趣旨が認められ、これまで以上に前向きに取り組む自信がついた。

人工費などに余裕ができ、活動にゆとりと展望が持てるようになり、長期的な活動の計画を立てることができた。

そのため、参加者とお祭り参加や展覧会についての具体的な話ができるようになり、参加者からは「楽しみにして頑張る」といった声や気持ちが伝わってきた。

消耗品費（材料）に余裕ができ、障がい者が使いやすい道具や画材を購入できた。画材の種類も増やせたので、参加者の希望に応えたり、「こんな

こともできるよ」といった制作の提案もできるようになった。

そのため、「すすんで制作に取り組み、活動を自分の時間として楽しむ」という参加者の姿が、これまでより多く見られるようになった。

年度末に、参加者も含めて次年度お祭り参加の計画行う予定だったが、コロナの影響で中止となった。また、サークル活動も中止が続き、参加者の中にはサークル自体が解散したと思っている人もおり、この一年でまとまりのできてきた活動が中断されたことが残念だ。

今後の活動の展望

障がい者の余暇活動・趣味活動として充実させ、同時に地域の中での交流の場として定着させたい。

そのため今後進めていきたいことは

●サークル活動：開催回数、参加者数、などについて、ニーズに応じたより良い方法を考えいく。

- スタッフ確保：サークルの活動規模に応じてスタッフを確保するための方法を考える。
- 情報の発信：障がい者のサークルという性格上、情報発信には難しさがあるが、地域社会との交流も活動の目的のひとつにしているので、活動の紹介などの発信も考えていく。
- 地域参加：活動地域の行事に参加する。



花の写生に集中しています



地域の福祉センターで開催しています



疾走する車のイメージです



猫のオブジェが得意です



いつも優しい色使いで描きます

ビデオレターはこちらから
<https://youtu.be/pLFGoFn0X5M>

